

調査票5

- とちく処理における CCP の設定
 処理工程の中で、CCPで管理することが可能と考えられる工程を抜き出し、その「管理基準」、「モニタリング方法・頻度」及び「改善措置」を記載してください
 記入上の注意
- ・ 「工程順」及び「処理工程」は調査票1と同一となること

工程順	処理工程	管理基準	モニタリング		改善措置
			方法	頻度	
6	食道結紮	食道断端がビニール袋で被われ確実に結紮されていること	目視	1頭毎	結紮不十分の場合は再度結紮
8	肛門結紮	肛門部がビニール袋で被われ確実に結紮されていること	目視	1頭毎	結紮不十分の場合は再度結紮
23	枝肉トリミング	汚染部位が確実にトリミングされていること	目視	1頭毎	トリミング不十分の場合は再トリミング

注) 一応 CCP として上記3工程を選じたが、管理基準の critical limit の設定が困難であると思われる

調査票 5

検査所名 兵庫県食肉衛生検査センター

○ とちく処理における CCP の設定

処理工程の中で、CCP で管理することが可能と考えられる工程を抜き出し、その「管理基準」、「モニタリング方法・頻度」及び「改善措置」を記載してください

記入上の注意

- ・ 「工程順」及び「処理工程」は調査票 1 と同一となること

工程順	処理工程	管理基準	モニタリング		改善措置
			温度計	作業前及び作業終了後	
2 1	スチーム バキューム	スチーム噴出し口温度：80℃以上	温度計	作業前及び作業終了後	基準の温度になるよう温度設定
2 8	トリミング	と体表面に腸内容物による汚染、残毛がないこと	目視確認	各と体の処理終了後	汚染部分をナイフで取り除く

調査票5

検査所名 宮崎県都城食肉衛生検査所

- どちら処理における CCP の設定
処理工程の中で、CCP で管理することが可能と考えられる工程を抜き出し、その「管理基準」、「モニタリング方法・頻度」及び「改善措置」を記載してください
記入上の注意
 - ・ 「工程順」及び「処理工程」は調査票1と同一となること

工程順	処理工程	管理基準	モニタリング		改善措置
			方法	頻度	
23	枝肉トリミング	獣毛、胃腸内容物で枝肉が汚染されず に清潔であること	昇降台を用いた目視	1 頭ごと	ナイフを用いたトリミングにより完全除去

調査票5

- とちく処理における CCP の設定
 処理工程の中で、CCP で管理することが可能と考えられる工程を抜き出し、その「管理基準」、「モニタリング方法・頻度」及び「改善措置」を記載してください
 記入上の注意
- ・ 「工程順」及び「処理工程」は調査票1と同一となること

工程順	処理工程	管理基準	モニタリング		改善措置
			方法	頻度	
26 27	枝肉トリミング	1. 枝肉に糞便・乳汁・胃腸内容物が付着していないこと 2. 枝肉に25本以上の獣毛が付着していないこと	目視	10頭毎に1頭	1. 逸脱の原因を特定し、それを排除する 2. 改善措置がとられた後、CCPの管理が出来ている事を確認する 3. 逸脱の再発予防措置をする 4. 健康に有害な製品が含まれていないか確認し、流通しないようにする

調査票 6

検査所名 岩手県食肉衛生検査所

○ 施設設備等の清掃管理

現在実施されている施設、機械器具等の清掃管理（洗浄消毒等）について記載してください

1 施設の清掃（洗浄消毒等）の管理

- 床及び壁を対象として記載とすること

施設（場所等）	順・方法	目的	使用薬剤種類	頻度・時期	清掃管理における留意点
繋留所	1 糞便等の除去	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること 清掃の方向は上方から下方に向かって作業を進めること 清掃作業（準備も含む）は枝肉等への汚染の恐れがあるときは行わないこと 固定された機械類と床等の隙間も入念に実施すること 繋留所以外の場所では洗浄消毒後必ず乾燥させること 作業開始前に施設内を点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること 清掃作業終了後の点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること 清掃用具は整理整頓し、所定の場所に保管すること
	2 温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄			
	1 温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄・消毒			
	2 泡洗浄	乾燥			
とちく解体処理室 (ダートインゾーン)	3 温湯 (70℃・高圧) 洗浄	洗浄・消毒	泡洗浄剤： 塩素系洗浄消毒剤	1回/日 作業終了後	
	4 水切り	乾燥			
	1 温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄			
	2 泡洗浄	洗浄・消毒			
とちく解体処理室 (クリーンゾーン)	3 温湯 (70℃・高圧) 洗浄	洗浄	泡洗浄剤： 塩素系洗浄消毒剤	1回/日 作業終了後	
	4 水切り	乾燥			
	1 温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄			
	2 泡洗浄	洗浄・消毒			

懸肉室	1	温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄	泡洗剤: 塩素系洗浄消毒剤	1回/週 枝肉保管のない日	<ul style="list-style-type: none"> 担当責任者は清掃状況を点検し、所定の用紙に記録すること 	
	2	泡洗浄	洗浄・消毒				
	3	温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄				
	4	水切り	乾燥				
	冷却保管庫	1	温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄	泡洗剤: 塩素系洗浄消毒剤		1回/週 枝肉保管のない日
		2	泡洗浄	洗浄・消毒			
		3	温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄			
		4	水切り	乾燥			

2 機械器具等の清掃 (洗浄消毒) の管理

- とちく処理に使用する主な機械器具等について記載すること
- とちく処理作業中以外の洗浄消毒について記載すること

設備・機械・器具	方法	目的	使用薬剤	頻度	清掃管理における留意点
放血台	温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし※	1回/日 作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること 洗浄後は必ず乾燥させること 作業開始前に点検し、不備な箇所は再度洗浄すること 清掃作業終了後の点検し、不備な箇所は再度洗浄すること 清掃用具は整理整頓し、所定の場所に保管すること 担当責任者は清掃状況を点検し、所定の用紙に記録すること ※ 通常の洗浄で汚染が除去できない場合は洗浄剤 (中性洗剤) を使用する
シャックリングチェーン	温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし※	1回/日 作業終了後	
直腸結紮器	温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし※	1回/日 作業終了後	
肛門結紮器	温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし※	1回/日 作業終了後	
フットカッター	温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし※	1回/日 作業終了後	
ホーンカッター	温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし※	1回/日 作業終了後	
胸割機	温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし※	1回/日 作業終了後	
背割機	温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし※	1回/日 作業終了後	
スチームバキューム	温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし※	1回/日 作業終了後	
ナイフ	温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし※	1回/日 作業終了後	
デハイドター	温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし※	1回/日 作業終了後	

○ 施設設備等の清掃管理

現在実施されている施設、機械器具等の清掃管理（洗浄消毒等）について記載してください

- 1 施設の清掃（洗浄消毒等）の管理
- ・ 床及び壁を対象として記載とすること

施設（場所等）	順・方法	目的	使用薬剤種類	頻度・時期	清掃管理における留意点
繋留所	1 水洗による糞便等の除去	洗浄	逆性石けん （必要に応じて塩素 剤を併用）	1回/日 作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること ・ 高圧温湯洗浄は2週間に1回行う ・ 清掃作業（準備も含む）は枝肉等への汚染の恐れがあるときは行わないこと ・ 担当者は清掃状況を点検し、所定の用紙に記録すること
	2 高圧温湯（90℃）洗浄	洗浄・消毒			
	3 消毒剤の散布	消毒			
とちく解体処理室 （ダーティゾーン）	1 水洗による血液等の除去	洗浄	逆性石けん （必要に応じて塩素 剤を併用）	1回/日 作業終了後	
	2 高圧温湯（90℃）洗浄	洗浄・消毒			
	3 消毒剤の散布	消毒			
	4 自然乾燥による水切り	乾燥			
とちく解体処理室 （クリーンゾーン）	1 水洗による血液等の除去	洗浄	逆性石けん （必要に応じて塩素 剤を併用）	1回/日 作業終了後	
	2 高圧温湯（90℃）洗浄	洗浄・消毒			
	3 消毒剤の散布	消毒			
	4 自然乾燥による水切り	乾燥			
懸肉室	1 水洗による血液等の除去	洗浄	逆性石けん （必要に応じて塩素 剤を併用）	1回/日	
	2 高圧温湯（90℃）洗浄	洗浄・消毒			
	3 消毒剤の散布	洗浄			
	4 自然乾燥による水切り	乾燥			
冷却保管庫	1 水洗による血液等の除去	洗浄	逆性石けん （必要に応じて塩素 剤を併用）	1回/3週 枝肉保管のない月 曜日	
	2 高圧温湯（90℃）洗浄	洗浄・消毒			
	3 消毒剤の散布	洗浄			
	4 自然乾燥による水切り	乾燥			

2 機械器具等の清掃（洗浄消毒）の管理

- ・ とちく処理に使用する主な機械器具等について記載すること
- ・ とちく処理作業中以外の洗浄消毒について記載すること

設備・機械・器具	方法	目的	使用薬剤	頻度	清掃管理における留意点
放血台	温湯（60℃）洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日、作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること ・ 洗浄後は必ず乾燥させること
	温湯（60℃）洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日、作業終了後	
シャックリングチェーン	温湯（60℃）洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日、作業終了後	

直腸結集器	温湯 (60℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日	作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> 清掃用具は整理整頓し、所定の場所に保管すること 担当責任者は清掃状況を点検し、所定の用紙に記録すること
肛門結集器	温湯 (60℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日	作業終了後	
フットカッター	温湯 (60℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日	作業終了後	
ホーンカッター	温湯 (60℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日	作業終了後	
胸雷機	温湯 (60℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日	作業終了後	
背雷機	温湯 (60℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日	作業終了後	
スチームバキューム	温湯 (60℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日	作業終了後	
ナイフ	温湯 (60℃) 洗浄 紫外線殺菌庫に保管	洗浄 消毒	薬剤の使用なし	1回/日	作業終了後	
デハイドター	温湯 (60℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日	作業終了後	

調査票 6

○ 施設設備等の清掃管理

現在実施されている施設、機械器具等の清掃管理（洗浄消毒等）について記載してください

1 施設の清掃（洗浄消毒等）の管理

- ・ 床及び壁を対象として記載とすること

施設（場所等）	順・方法	目的	使用薬剤種類	頻度・時期	清掃管理における留意点
繋留所	1 糞便等の除去			1回/日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること ・ 清掃の方向は上方から下方に向かって作業を進めること ・ 清掃作業（準備も含む）は枝肉等への汚染の恐れがあるときは行わないこと ・ 固定された機械類と床等の隙間は入念に実施すること ・ 繋留所以外の場所では洗浄消毒後必ず乾燥させること
	2 洗浄水による洗浄	洗浄		作業終了後	
	3 タワシ・ブラシ等による洗浄	洗浄	泡洗浄剤： 界面活性剤	汚れが重度の場合 使用する	
	④ 洗浄剤による洗浄	洗浄		1回/日	
とちく解体処理室	1 温湯 (60℃) 洗浄	洗浄			

(ダewaterゾーン)	2	タワシ・ブラシ等による泡洗浄	洗浄・消毒	泡洗浄剤： 塩素系洗浄消毒剤	作業終了後
	3	温湯 (70℃・高圧) 洗浄	洗浄		
	4	水切り	乾燥		
	1	温湯 (60℃) 洗浄	洗浄		
とちく解体処理室 (クリーンゾーン)	2	タワシ・ブラシ等による泡洗浄	洗浄・消毒	泡洗浄剤： 塩素系洗浄消毒剤	1回/日 作業終了後
	3	温湯 (70℃・高圧) 洗浄	洗浄		
	4	水切り	乾燥		
	1	温湯 (60℃) 洗浄	洗浄		
懸肉室	2	水切り	乾燥	泡洗浄剤： 塩素系洗浄消毒剤	1回/日
	(3)	泡洗浄	洗浄・消毒		
	(4)	水切り	乾燥		
	1	温湯 (60℃) 洗浄	洗浄		
冷却保管庫	2	水切り	乾燥	泡洗浄剤： 塩素系洗浄消毒剤	1回/日
	(3)	泡洗浄	洗浄・消毒		
	(4)	水切り	乾燥		
	1	温湯 (60℃) 洗浄	洗浄		

2 機械器具等の清掃 (洗浄消毒) の管理

- とちく処理に使用する主な機械器具等について記載すること
- とちく処理作業中以外の洗浄消毒について記載すること

設備・機械・器具	方法	目的	使用薬剤	頻度	清掃管理における留意点
シャクルトロローリー	温湯 (60℃) とタワシ・ブラシ等による洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること 通常の洗浄で除去できない場合は、洗浄剤を使用すること 洗浄後は必ず乾燥させること 作業開始前に点検し、不備な箇所は再度洗浄すること 清掃作業終了後の点検し、所定の場所に保管すること 清掃用具は整理整頓し、所定の用紙に記載すること 担当責任者は清掃状況を点検し、所定の用紙に記載すること
食道分離機	温湯 (60℃) とタワシ・ブラシ等による洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
ホーンカッター	温湯 (60℃) とタワシ・ブラシ等による洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
肛門締薬機	温湯 (60℃) とタワシ・ブラシ等による洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	

	ラシ等による洗浄					
フットカッター	温湯 (60°C) とタワシ・ブ ラシ等による洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1 回/日	作業終了後	
ホイストフック	温湯 (60°C) とタワシ・ブ ラシ等による洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1 回/日	作業終了後	
胸割り機	温湯 (60°C) とタワシ・ブ ラシ等による洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1 回/日	作業終了後	
プーラーチェーン	温湯 (60°C) とタワシ・ブ ラシ等による洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1 回/日	作業終了後	
吸引チューブ (背触吸引)	薬剤浸漬	洗浄・消毒	1 N・N a O H	1 回/日	作業終了後	
ガイドパイプ (背触吸引)	薬剤浸漬	洗浄・消毒	1 N・N a O H	1 回/日	作業終了後	
背割り機	温湯 (60°C) とタワシ・ブ ラシ等による洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1 回/日	作業終了後	
ナイフ	温湯 (60°C) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1 回/日	作業終了後	
エアナーナイフ	温湯 (60°C) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1 回/日	作業終了後	

調査票6

検査所名 静岡県東部食肉衛生検査所

○ 施設設備等の清掃管理

現在実施されている施設、機械器具等の清掃管理（洗浄消毒等）について記載してください

- 1 施設の清掃（洗浄消毒等）の管理
- ・ 床及び壁を対象として記載とすること

施設（場所等）	順・方法	目的	使用薬剤種類	頻度・時期	清掃管理における留意点
繋留所	1 温湯 (90～110℃・高圧) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること ・ 清掃の方向は上方から下方に向かって作業を進めること
とちく解体処理室 (ダーティゾーン)	1 温湯 (90～110℃・高圧) 洗浄	洗浄・消毒	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃作業（準備も含む）は枝肉等への汚染の恐れがあるときは行わないこと ・ 固定された機械類と床等の隙間は入念に実施すること ・ 作業開始前に施設内を点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること ・ 清掃作業終了後の点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること ・ 清掃用具は整理整頓し、所定の場所に保管すること ・ 担当責任者は清掃状況を点検し、所定の用紙に記録すること
懸肉室	1 温湯 (90～110℃・高圧) 洗浄	洗浄・消毒	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
冷却保管庫	1 水洗浄 2 消毒	洗浄・消毒	塩素系消毒剤	1回/日 (水洗浄) 枝肉搬出後 1回/週 (消毒) 枝肉搬出後	

2 機械器具等の清掃（洗浄消毒）の管理

- ・ とちく処理に使用する主な機械器具等について記載すること
- ・ とちく処理作業中以外の洗浄消毒について記載すること

設備・機械・器具	方法	目的	使用薬剤	頻度	清掃管理における留意点
放血台	温湯 (90～110℃・高圧) 洗浄	洗浄・消毒	薬剤の使用 なし	1回/日 作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること ・ 洗浄後は必ず乾燥させること ・ 作業開始前に点検し、不備な箇所は再度洗浄すること ・ 清掃作業終了後の点検し、不備な箇所は再度洗浄すること ・ 清掃用具は整理整頓し、所定の場所に保管すること ・ 担当責任者は清掃状況を点検し、所定の用紙に記載すること
シャックリングチェーン	温湯 (90～110℃・高圧) 洗浄	洗浄・消毒	薬剤の使用 なし	1回/日 作業終了後	
胸背機 (のこぎり)	温湯 (90～110℃・高圧) 洗浄	洗浄・消毒	薬剤の使用 なし	1回/日 作業終了後	
背背機	温湯 (90～110℃・高圧) 洗浄	洗浄・消毒	薬剤の使用 なし	1回/日 作業終了後	
ナイフ	温湯 (40～50℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用 なし	1回/日 作業終了後	

調査票6

○ 施設設備等の清掃管理
現在実施されている施設、機械器具等の清掃管理（洗浄消毒等）について記載してください

- 1 施設の清掃（洗浄消毒等）の管理
・ 床及び壁を対象として記載とすること

施設（場所等）	順・方法	目的	使用薬剤種類	頻度・時期	清掃管理における留意点
繋留所	1 糞便等の除去	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること 清掃作業（準備も含む）は枝肉等への汚染の恐れがあるときは行わないこと 清掃作業終了後の点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること 清掃用具は整理整頓し、所定の場所に保管すること 責任者は清掃状況を点検し、記録すること
	2 水洗	洗浄	薬剤の使用なし	1回/年（年末） 作業終了後	
とちく解体処理室 （ダーティゾーン）	1 温湯（70～80℃・高圧）洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
	2 温湯（60～70℃）洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
とちく解体処理室 （クリーンゾーン）	1 温湯（70～80℃・高圧）洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
	2 温湯（60～70℃）洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
懸肉室	1 温湯（60～70℃）洗浄 ポリッシャー・デッキブラシ	洗浄	薬剤の使用なし	枝肉保管の少ない日 年数回（不定期）	
冷却保管庫	1 温湯（60～70℃）洗浄 ポリッシャー・デッキブラシ	洗浄	薬剤の使用なし	枝肉保管の少ない日 年数回（不定期）	

2 機械器具等の清掃（洗浄消毒）の管理

- ・ とちく処理に使用する主な機械器具等について記載すること
- ・ とちく処理作業中以外の洗浄消毒について記載すること

設備・機械・器具	方法	目的	使用薬剤	頻度	清掃管理における留意点
シャックリングチェーン	温湯 (60～70℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	・ 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること
直腸結紮器	温湯 (60～70℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	・ 洗浄後は必ず乾燥させること
肛門結紮器	温湯 (60～70℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	・ 清掃作業終了後の点検し、不備な箇所は再度洗浄すること
フットカッター	温湯 (60～70℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	・ 清掃用具は整理整頓し、所定の場所に保管すること
ホーンカッター	温湯 (60～70℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	・ 責任者は清掃状況を点検し、記録すること
胸膏機	温湯 (60～70℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
背膏機	温湯 (60～70℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
ナイフ	温湯 (60～70℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
デハイドー	温湯 (60～70℃) 洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	

調査票⑥

○ 施設設備等の清掃管理

現在実施されている施設、機械器具等の清掃管理（洗浄消毒等）について記載してください

1 施設の清掃（洗浄消毒等）の管理

- ・ 床及び壁を対象として記載とすること

施設（場所等）	順・方法	目的	使用薬剤種類	頻度・時期	清掃管理における留意点
繋留所	1 糞便等の除去	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること ・ 清掃の方向は上方から下方に向かって作業を進めること ・ 清掃作業（準備も含む）は枝肉等への汚染の恐れがあるときは行わないこと ・ 固定された機械類と床等の隙間には入念に実施すること ・ 繋留所以外の場所では洗浄消毒後必ず乾燥させること ・ 作業開始前に施設内を点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること ・ 清掃作業終了後に点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること ・ 清掃用具は整理整頓し、所定の場所に保管すること ・ 担当責任者は清掃状況を点検し、所定の用紙に記録すること
	2 温湯（40～50℃）洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
	1 水洗浄 2 温湯（100℃・高圧）洗浄 3 水切り	洗浄・消毒 乾燥	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
とちく解体処理室 （ダートインゾーン）	1 水洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること ・ 清掃の方向は上方から下方に向かって作業を進めること ・ 清掃作業（準備も含む）は枝肉等への汚染の恐れがあるときは行わないこと ・ 固定された機械類と床等の隙間には入念に実施すること ・ 繋留所以外の場所では洗浄消毒後必ず乾燥させること ・ 作業開始前に施設内を点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること ・ 清掃作業終了後に点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること ・ 清掃用具は整理整頓し、所定の場所に保管すること ・ 担当責任者は清掃状況を点検し、所定の用紙に記録すること
	2 温湯（100℃・高圧）洗浄	洗浄・消毒	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
	1 水洗浄 2 温湯（100℃・高圧）洗浄 3 水切り	洗浄・消毒 乾燥	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
懸肉室	1 水洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/月 枝肉保管のない日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること ・ 清掃の方向は上方から下方に向かって作業を進めること ・ 清掃作業（準備も含む）は枝肉等への汚染の恐れがあるときは行わないこと ・ 固定された機械類と床等の隙間には入念に実施すること ・ 繋留所以外の場所では洗浄消毒後必ず乾燥させること ・ 作業開始前に施設内を点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること ・ 清掃作業終了後に点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること ・ 清掃用具は整理整頓し、所定の場所に保管すること ・ 担当責任者は清掃状況を点検し、所定の用紙に記録すること
	2 温湯（100℃・高圧）洗浄	洗浄・消毒	薬剤の使用なし	1回/月 枝肉保管のない日	
	1 水洗浄 2 温湯（100℃・高圧）洗浄 3 水切り	洗浄 洗浄・消毒 乾燥	薬剤の使用なし	1回/月 枝肉保管のない日	
冷却保管庫	1 水洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/月 枝肉保管のない日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること ・ 清掃の方向は上方から下方に向かって作業を進めること ・ 清掃作業（準備も含む）は枝肉等への汚染の恐れがあるときは行わないこと ・ 固定された機械類と床等の隙間には入念に実施すること ・ 繋留所以外の場所では洗浄消毒後必ず乾燥させること ・ 作業開始前に施設内を点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること ・ 清掃作業終了後に点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること ・ 清掃用具は整理整頓し、所定の場所に保管すること ・ 担当責任者は清掃状況を点検し、所定の用紙に記録すること
	2 温湯（100℃・高圧）洗浄	洗浄・消毒	薬剤の使用なし	1回/月 枝肉保管のない日	
	1 水洗浄 2 温湯（100℃・高圧）洗浄 3 水切り	洗浄 洗浄・消毒 乾燥	薬剤の使用なし	1回/月 枝肉保管のない日	

2 機械器具等の清掃（洗浄消毒）の管理

- ・ とちく処理に使用する主な機械器具等について記載すること
- ・ とちく処理作業中以外の洗浄消毒について記載すること

設備・機械・器具	方法	目的	使用薬剤	頻度	清掃管理における留意点
放血台	温湯 (100℃) 高圧洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	・ 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること
シャックリングチェーン	温湯 (100℃) 洗浄	洗浄消毒	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	・ 作業開始前に点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること
食道結紮器	温湯 (83℃) 洗浄	洗浄消毒	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	・ 作業終了後に点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること
肛門結紮器	温湯 (83℃) 洗浄	洗浄消毒	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	・ 用具は整理整頓し、所定の場所に保管すること
フットカッター	温湯 (83℃) 洗浄	洗浄消毒	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	・ 担当責任者は洗浄消毒状況を点検し、所定の用紙に記録すること
ホーンカッター	温湯 (83℃) 洗浄	洗浄消毒	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
胸膏機	温湯 (83℃) 洗浄	洗浄消毒	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
背膏機	温湯 (83℃) 洗浄	洗浄消毒	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
スチームバキューム	温湯 (40℃) 洗浄	洗浄消毒	厨房用合成洗剤	1回/日 作業終了後	
ナイフ	温湯 (83℃) 洗浄	洗浄消毒	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
デハイダー	温湯 (83℃) 洗浄	洗浄消毒	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	

調査票6

検査所名 高崎県都城食肉衛生検査所

○ 施設設備等の清掃管理
現在実施されている施設、機械器具等の清掃管理（洗浄消毒等）について記載してください

1 施設の清掃（洗浄消毒等）の管理

- ・ 床及び腰壁を対象として記載とすること

施設（場所等）	順・方法	目的	使用薬剤種類	頻度・時期	清掃管理における留意点
繋留所	1 糞便等の除去 2 水洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること ・ 清掃の方向は上方から下方に向かって作業を進めること ・ 清掃作業（準備も含む）は枝肉等への汚染の恐れがあるときは行わないこと ・ 固定された機械類と床等の隙間は入念に実施すること ・ 繋留所以外の場所では洗浄消毒後必ず乾燥させること ・ 清掃作業終了後は点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること ・ 清掃用具は整理整頓し、所定の場所に保管すること ・ 作業開始前に施設内を点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒し所定の用紙に記録すること
とちく解体処理室 (ダートゾーン)	1 温湯 (40~50℃) 洗浄 2 洗剤洗浄あるいは泡洗浄 3 温湯 (83℃・高圧) 洗浄 4 水切り	洗浄・消毒 洗浄 洗浄 乾燥	泡洗浄剤： 塩素系洗浄消毒剤	1回/日 作業終了後	
とちく解体処理室 (クリーンゾーン)	1 温湯 (40~50℃) 洗浄 2 洗剤洗浄あるいは泡洗浄 3 温湯 (83℃・高圧) 洗浄 4 水切り	洗浄 洗浄・消毒 洗浄 乾燥	洗剤：固形石けん 泡洗浄剤：塩素系洗 浄消毒剤 (週1回)	1回/日 作業終了後	
懸肉室	1 温湯 (40~50℃) 洗浄 2 水切り	洗浄 乾燥	洗剤：固形石けん 泡洗浄剤：塩素系洗 浄消毒剤 (週1回)	1回/日 作業終了後	
冷却保管庫	1 温湯 (40~50℃) 洗浄 2 水切り	乾燥 洗浄 乾燥	泡洗浄剤： 塩素系洗浄消毒剤	不定期 枝肉保管のない日	

2 機械器具等の清掃（洗浄消毒）の管理

- とちく処理に使用する主な機械器具等について記載すること
- とちく処理作業中以外の洗浄消毒について記載すること

設備・機械・器具	方法	目的	使用薬剤	頻度	清掃管理における留意点
皿血台	洗剤で汚れ等を洗浄し温湯 (40～50℃) で洗い流す	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること
シャックリングチェーン	洗剤で汚れ等を洗浄し温湯 (40～50℃) で洗い流す	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> 洗浄後は必ず乾燥させること 清掃作業終了後の点検し、不備な箇所は再度洗浄すること 清掃用具は整理整頓し、所定の場所に保管すること 作業開始前に点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒し所定の用紙に記録すること
直腸結紮器	洗剤で汚れ等を洗浄し温湯 (40～50℃) で洗い流す	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
肛門結紮器	洗剤で汚れ等を洗浄し温湯 (40～50℃) で洗い流す	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
フットカッター	洗剤で汚れ等を洗浄し温湯 (40～50℃) で洗い流す	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
ホーンカッター	洗剤で汚れ等を洗浄し温湯 (40～50℃) で洗い流す	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
胸骨機	洗剤で汚れ等を洗浄し温湯 (40～50℃) で洗い流す	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
背割機	洗剤で汚れ等を洗浄し温湯 (40～50℃) で洗い流す	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
ナイフ	洗剤で汚れ等を洗浄し温湯 (40～50℃) で洗い流す	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	
デハイドター	洗剤で汚れ等を洗浄し温湯 (40～50℃) で洗い流す	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	

調査票6

検査所名 鹿児島県末吉食肉衛生検査所

- 施設設備等の清掃管理
現在実施されている施設、機械器具等の清掃管理（洗浄消毒等）について記載してください
- 1 施設の清掃（洗浄消毒等）の管理
 - ・ 床及び要壁を対象として記載とすること

施設（場所等）	順・方法	目的	使用薬剤種類	頻度・時期	清掃管理における留意点
繋留所	1 糞便等の除去	清掃	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目視できる汚物、肉片は完全に除去すること ・ 清掃の方向は上方から下方に向かって作業を進めること ・ 清掃作業（準備も含む）は枝肉等への汚染の恐れがあるときは行わないこと
	2 高圧洗浄	洗浄			
	3 温湯（およそ60℃）洗浄	洗浄			
とちく解体処理室	1 高圧温湯（およそ60℃）洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 固定された機械類と床等の隙間は入念に実施すること ・ 繋留所以外の場所では洗浄後、乾燥させること ・ 作業開始前に施設内を点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること ・ 清掃作業終了後の点検し、不備な箇所は再度洗浄消毒すること
	2 水切り	乾燥			
懸肉室	1 高圧温湯（およそ60℃）洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	1回/日 作業終了後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃用具は整理整頓し、所定の場所に保管すること ・ 担当責任者は清掃状況を点検し、所定の用紙に記載すること
	2 水切り	乾燥			
枝肉保管庫	1 高圧洗浄	洗浄	薬剤の使用なし	2回/年 枝肉保管のない日	
	2 水切り	乾燥			

解体処理室・懸肉室の壁については、月1回以上中性洗剤で洗浄後、高圧温湯で洗い流す。